

家庭教育力の強化を図る

家庭・学校・地域の絆を深めるPTA活動

大府市立神田小学校PTA

1 はじめに

本校は、大府市の東部に位置し、東海道新幹線が校区をほぼ二分している。ドクターイエローが通過する日は、教室から歓声があがる。北西部の丘陵地では梨やぶどう等の果樹園や里山、東部は境川や五箇村川が流れ、ホタルの飛び交う自然に恵まれた地域である。



【神田小学校の校舎】

本校の歴史は古く、明治6年に文開学校として北尾村の極楽寺下校舎

で授業が始まり、明治40年1月1日に、北崎・横根両小学校を仮教場にして、大府第二尋常小学校が創設された。昭和23年10月に大府町立神田小学校、昭和45年9月の市制施行に伴い大府市立神田小学校へと校名が変更された。平成18年の創立100周年には、地域の絶大なる協力を得てさまざまな記念行事を行った。110周年を迎えた平成28年は、航空写真を撮影した。

現在、児童数は409名で、大府市に九つある小学校の中では一番小さな学校であるが、伝統ある学校で地域とのつながりは深く、地域に支えられた学校である。「校訓：自ら求めて たくましく 生きぬく子」や「役だつ人」の精神は、今も脈々と受け継がれている。

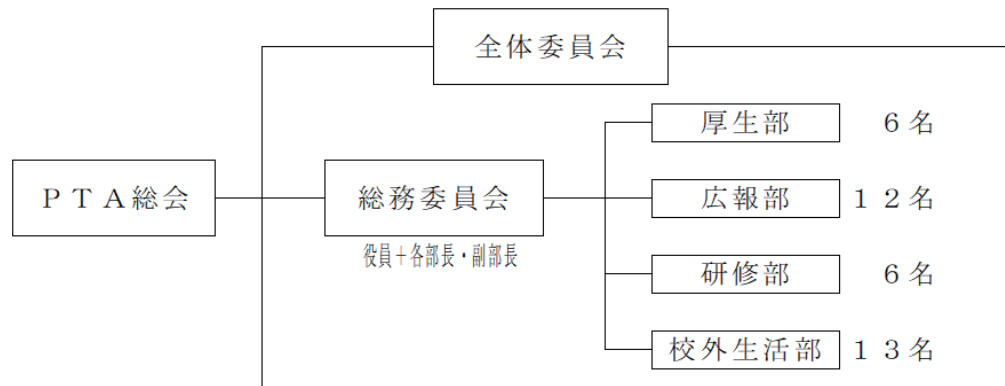
2 研究への取組

(1) 研究のねらい

子どもたちの健やかな成長に向けてPTAが取り組む活動の中に、子どもたちとの会話のきっかけとなったり、保護者自身が視野を広げたりできる活動を多く取り入れ、子育てを楽しめるよう、その一助となる活動を行っていく。積極的にPTA活動に参加することで、家庭内での子どもとの会話が増えたり、親同士の連携が深まったりすることを目指し、家庭の教育力の強化につなげていく。

(2) PTAの組織

PTA総会を主体に、各学年4名ずつの委員、各地域の地区委員、そして役員（会長・副会長・母親代表・書記・会計）が選出されて全体委員会を組織している。さらに、総務委員会および四つの専門部が組織され、年3回の全体会と、年7回の総務委員会を開催している。専門部は随時開催している。



3 実践活動の概要

(1) 給食試食会

厚生部が中心となって、毎年6年生の修学旅行に重ねて給食試食会を行っている(令和2・3年度はコロナ禍のため実施せず)。栄養教諭から、成長期の子どもに必要な栄養についての講義や、成長期の子どもたちの栄養バランスを考えた献立などについての説明を受けている。また、普段の食生活についての視点や意識することなども話し合い、食の大切さを学ぶ機会を設けている。

(2) 読み聞かせボランティア

PTA会員の有志により、朝の読み聞かせ活動を行っている。活動開始当初は数名であったため、低学年のみの読み聞かせであったが、募集し人員も増え、本年度から全学級での読み聞かせを実施した。低学年、高学年で日にちを分けながら、全学級で読み聞かせや語り聞かせを行っている。



【高学年への読み聞かせ】

(3) PTA除草作業

毎年、夏休みの出校日に重ねて親子除草作業を行ってきた。しかし、近年熱中症の心配もあり、3年前から保護者のみで行っている。昨年度からは大人数で行うことが制限され、本年度は、PTA委員と、会員に有志を募って取り組んだ。保護者が学校のために活動している姿を見ることは、子どもたちにとって、安心感を得ることにつながり、保護者も、学校の様子を知ったり、子どもとの会話のきっかけにしたりできるため、取り組みを継続している。



【有志による除草作業】

(4) P T A研修会、バス研修会

例年、P T A研修部主催で、学習会や研修会を行っている。各家庭に参加を募集し、知識・教養を深めたり、体験活動を行ったりしながら、文化的な活動を進めている。各学期に1回行い、2学期はバスで郊外に出かけ、いろいろな施設などを見学している。

昨年度はコロナ禍でもあり、活動は自粛した。本年度は、回数は減らしたが感染防止対策を行いながら実施した。

○ 2学期P T A研修会

講座名：「親の育ち」家庭教育研修会

子育てネットワーカーの方を講師に迎え、成長過程で大きく変化していく子どもたちの様子を理解し、親としてどのような視点や姿勢で子どもたちに接し、支援するとよいのかをお話していただいた。心の相談員として接してきた経験をもとに、子どもたちの悩みや感情の変化など、具体的な例をたくさん示して講演され、参加した保護者も視野を広げることができた。



【家庭教育研修会】

(5) ベルマーク活動

P T A厚生部を中心に、毎年ベルマーク活動を行っている。集まったベルマークは、子どもたちのために必要な物品や学校環境を整えるための費用として活用している。各家庭では、普段からベルマークを集めており、学期に1回、回収時期を決めて各家庭から持ち寄り集計する。集計は、児童やP T A厚生部が行っている。神田小学校でのベルマーク活動は長く続



【ベルマーク集計作業】

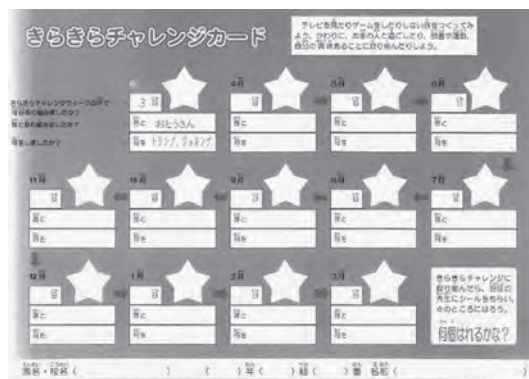
いているため、地域の方もベルマークを提供してくださることもある。ベルマークを各家庭で集めることにより、物の大切さや有効利用、社会貢献などについて家庭で話題にできる一役となっている。

(6) きらきらチャレンジ

毎月第3週を「きらきらチャレンジウィーク」として、家族とともに過ごす時間を大切にする取組を行っている。生活の中で、テレビやゲームの時間が縮める割合が増加し、家族と触れ合う時間の減少や運動不足、読書離れ、人との関わりや実体験の不足、生活習慣の乱れなどの問題の

解消に向け、各家庭で団らんやスポーツ、読書や趣味の時間など、それぞれの家族で有意義な時間を過ごすようにしている。

チャレンジウィーク中に各家庭で都合のよい日を1日以上設定し、何をするかを決めて、無理なくできることに取り組んでいる。チャレンジウィーク中に取り組んだことを、きらチャレンジカードに記録し、毎月担任に報告している。各家庭の状況によって取り組みにも差ができることもあるが、家族のつながりを深める機会として継続して取り組んでいる。



【きらきらチャレンジカード】

(7) 見守り活動

登校時に、各地区で交通立哨として、当番制で、全家庭が通学団の道路の横断を支援したり、様子を見守ったりしている。通学エリアも広いため、遠くから登校して来る児童は、多くの大人に見守られながら登校している。児童の様子を見守ることで、交通安全に関わる問題点なども分かり、地域の危険箇所の掌握にも役立っている。



【登校の見守り】

通学路の点検時では、子どもたちの安全の確保に向け、様々な意見を吸い上げることができ、市役所へ安全対策の要望をすることができた。また、地域の子どもの様子を見ることで、そのエリアに住む子どもたち一人一人を知ることにも役立つとともに、あいさつを交わし合うことで、子どもたちと触れ合う機会となっている。

また、朝の交通立哨の他にも、0のつく日を中心としたあいさつ運動、下校時の見守り活動、長期休業中のパトロールなども行いながら、子どもたちを見守っている。

4 おわりに

新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度はさまざまな活動が制限された。本年度もまだまだ渦中ではあるが、こうした状況であるからこそ、家庭の教育力を高めていかなければならない。子どもたちは家庭で過ごす時間が増え、保護者の心情が子どもたちの心に大きく影響を与えている。本年度の活動を精査し、継承・発展をさせながら、今後もよりよい活動となるよう取り組んでいきたい。